

## ガーナでそろばんプロジェクト 128 号(2025 年 11 月 30 日)

### ★★ ガーナの教育カリキュラムと子どもが学ぶ環境 ★★

十一月の後半、一か月振りとなるアフィフュのそろばん教室は、開室を待ち望んでいた子どもたちが来るものだと思っていたましたが、来た子どもは初めて来るという年生の女子だけでした。翌週の授業のあった日に、来なかつた生徒に“なぜ土曜日に来なかつたのか?”と聞いたら“忘れていた”という返事でした。忘れていたなんてあるのでしょうか。私には、思い当たる節がありました。九九を覚える事を徹底させた事が原因の一いつだと思うのです。かつて、そろばん教室に通つていた子どもたちと比べてはならないけれど、子どもの学びへのモチベーションの質が格段と落ちています。十年ほど前、落第をした生徒がそろばん教室に通つていきました。彼は、私に叱られながらも九九を覚え、マイそろばんを手にする事が出来ました。覚えたとは言え、直ぐに答えが出る事が無く、同じ数を一回ずつ頭の中で足していくのが見ていても分かりました。この頃の子どもも、またコロナ禍前まで通つていた子どもも、そろばんの計算方法を習得するイコール九九を覚える事を進んでやつていました。そうしたことが感じられたから、どんな時でも“たとえ来る子どもが一人でもそろばん教室をやる”“検定に合格させて、学業支援の参考書を手にしてもらいつ”と私自身がモチベーションを高く持ち続けてくることが出来たのです。感情的になり怒った子どももいます。大学進学をしたうちの一人は、カシニングをして答えを出していたため、私に大激怒され、大粒の涙をこぼし“そろばんを続けたい”と言つたのです。以来彼は、不正行為をすることがなく、めきめきと力をつけていきました。いつだつたか、高校に在籍してた時、村に帰つて来たからと、そろばん教室にやって来て3級の練習プリントをやっていったことがあります。怒られても辞めることなく、九九の暗記から逃げ出すことなく学んだ子どもだけが気づく、学び続ける事の意義なのでしょう。

クラウディスクールでも一か月振りとなるそろばんの指導を行ないました。この日は、万博国際交流プログラムの一環で、大阪の中学生がクラウディスクールの生徒と文化交流を行なうという事もあり、そろばんの授業を見学してくれました。中学一年の女子生徒から“どつても分かり易かった”と感想もあれば、中学三年生の男子生徒は、黒板に描かれたあった心臓の図を懸命に板書していました。生徒が気になつたのか?“黒板に描いてあったのは難しいのに、そろばんは違いますね”と、常日頃私が抱いているガーナの教育カリキュラムの矛盾を感じたようです。午後、村を散策した時に、いつも一生懸命学んでいる生徒の家に行つた時に、生徒のお母さんに“いつも、そろばんの授業を一所懸命受けているの。とっても賢いわ。”と生徒の前で褒めました。生徒は、はにかんでとても嬉しそうで、また子どもが褒められたお母さんもとても嬉しそうに、そして恥ずかしそうに、その生徒の身体に触れました。日本の子どもと同じです。褒めてあげたい時は、直接褒める。特にガーナの子どもは家庭内で褒められる事が皆無です。そうした背景もあってか、褒められた生徒と子どもを褒めてもう一人お母さんの姿がずっと焼き付いたまま迎えたアフィフュのそろばん教室でもありました。褒める事を忘れずにやつていいの、やつ思わせてくれた村散策の時間でもありました。

報告 TOSHIKO



子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛

トモエそろばん様